

曹氏日記

二

113

584

2

5

10

15

20

25

30

13  
584  
2

遭厄日本紀事卷之下

目次

- 一 アトロフ島出張是ラソワ人交易之話
- 一 蝦夷人葦島歌ヲ捕らる
- 一 クナエリ子山子着岸 尾継子遊らる
- 一 クナエリ子上陸 日本へと返對せらる
- 一 日本へ子熊渡去處とある事

大正十五年二月  
尾継子遊らる

遭厄日本紀事卷之下

馬場貞由譯

高橋景保校

正下口ノ島出帆并ニラソワノ人交易ノ事

一 船日午時子多ク天晴禮氣ハ強ク以テ物出ル  
 一ツツノ島ト東岸ノ洲ヲモトク是ノ際ニ來リシ  
 船長ノ命ヲ降シシメ帆ヲ垂ク揚テ船ヲ舟中  
 へ船長ノ命ヲ垂クシテ舟中ニ至リテ離陸  
 時ニ船長ノ命ヲ垂クシテ舟中ニ至リテ離陸  
 出ルニ招ク中ニ是ノ舟中係ノ漏レ沈没スル

思ひしは是を救はん是の時子引書五し  
王后子ハ何れに波出掛けハ賊路入人若  
し日申人子候七付秘事必生日申ハ已教書進人  
と為疑言尾属と此ハ市大子等一之徳を信し  
漸く信列して子と成りし徳性質ハ一ハ  
比思此ハ子と成りしハ容易に解けりし事  
也其列する時ハ実より哀れ感事一也其  
舟申をり各大書ハ書けり書る事希なり  
昔廿二日申人子秘事此をんハ舟會し君ホ  
ハ為子候と云ハ馬前合事ハ若葱と云

梯とんとの事

一上ト号を出帆してハルツブ子あり花巻山の岸子也  
例量する三ハ是ハフクハ名海峽ヲ過し  
フーレツ子行ん在り子逆風ありハ舟も事  
能る後依前多子舟ヲ向ケ上ト号ハ東岸子位此  
ハ花巻山ヲ例量せり然る子舟ハ直航の如くに連れ  
来れる是キカイ歎ハ我ホハ心中日申ハ子害を  
不せんといふ疑也ハ也動も在れハ事ハ洞張の如  
き事云ハハと市思事とも舟言ハハの疑事  
解とんとの事ハ能とんとの事ハ今も事ハハハ志

し式日天候風定りしとき 取中の者二命し  
て我々の調陣ありあるは昂人数り三隊に分ち  
て一隊ハ大炮を二隊ハ鳥銃を三隊ハ銃と槍  
より持て各隊持ちしるを各隊に作法あり  
其アリヤカイ 其体ヲ是ニ 恐怖 兩 題 述べし  
その時予 陣 中 ありて曰く予亦日本國に在る  
ハ日本人の我より我をんる可也 固て其防禦あり  
め今個陣ありあるは其の如し 然れども  
他陣 我々 親しむを我々 又得 他々 ありて  
ありしとき 予アリヤカイ 陣 中 ありて其意を悟り

予の意を信する 体をたせ 然れども 申さる 銃兵  
の似し 初も 在れハ 不之を 難し 況や ありて  
予の意を 曰えを 戒ハ 條理 無き ありて 是に 戒ハ  
俄に 陣中 ありて 予 船 渡人 日本 人  
の交易の ありて 同し 秘に 告げ たり 其  
予より 向ふりハ 何れ とも 明か ありて 或時 予  
彼を 茶を 喫せし 時 予を 呼ばし 日本 人 とい  
ふ 易い ありて 不之を 修り 出せり 予より ありて 知り  
はんと 難し ありハ 威を 示し 信せん ありハ 幸 信話  
人 中 無き ありて 難し あり 其 意 然り 不之を



一 <sup>日最</sup> 船先の海標の長一短しハ大儀の米千俵

俵千一俵の長々之ビト下百十俵五とされ

海標の長々短々三十三ビト下百十俵六米あり

舟の角しカムニヤツカアある西量利あり

之因銀さハ一ビト 三重官守自の米 力米と十

六ト下フル 係掛子ルフルハ係船の積安の米九俵

之重了海標の長一短と五半ル一フル 子量

れハ船頭ノ命跡者船長ノ海程度一短と實

ふ千一ハ之ビト十一と五万二十目合し

米 係掛の長十俵の  
利と船の長と

一 水船の長一短しハ少俵の米七俵

一 龍馬の尾十層ハ少俵の米三俵或備五俵一

一 龍馬の尾三層ハ係入る本海の新一

一 龍馬の翼十下ハ烟草十把 振入ノ不煙草と云ふ説あり

二 之等七何又日出合 係入ノ不煙草と云ふ説あり

日本人ハ龍馬の尾并子ニ翼を併し船と云ふ力俵と

く其の長一短しハ五日本人ハ海標の長一短と云ふ

ぬさし俵もく量實する千ありと云ハ 係掛の長一短と云ふ

諸子置或ハ随泊の陣を系子貫つて

くつもの中ハ龍馬の長一短ハ係入の長一短と云

一 漢紅毛の四種所、凡百七千切、其の末  
うらま、是を以て、中世、是等の所、所、  
とも、又、我、五、う、た、の、る、も、の、所、  
よ、破、り、の、降、と、い、つ、解、と、な、る、し、形、

帆、舟、人、世、馬、教、と、捕、事、

平、何、人、を、来、付、く、彼、等、の、産、業、と、告、る、を、捕、  
— ア、レ、キ、セ、イ、人、終、り、を、秘、り、と、い、ふ、事、  
且、其、促、信、の、言、言、ある、こと、を、以、て、是、等、の、  
の、様、多、く、一、と、告、げ、と、い、ふ、事、  
有、り、と、い、ふ、事、  
と、い、ふ、事、

是、を、と、り、て、之、を、一、を、未、商、館、と、い、ふ、  
一、五、一、西、墨、利、那、の、海、邊、  
かし、是、れ、を、人、教、と、い、ふ、事、  
聖、一、今、ハ、漸、く、海、邊、に、出、  
の、海、邊、に、終、り、  
此、等、の、角、の、如、き、物、を、出、  
怖、れ、と、い、ふ、事、  
等、を、と、り、海、上、に、出、  
居、り、  
強、く、捕、り、  
強、く、捕、り、







一凡て俄陸羽子位属者 惟美ハ皆禁ヲ判レる

一 下口 五 見 る 惟 美 別ち俄陸羽飲テ

と も く あ ら う 是 ハ 老 翁 ノ ト 判 シ 今在早

禁子 倣え 然 る レ シ アレキセイ 名 號 ヲ 平 リ 取 リ

る ま る ニ 定 め る を ま し 主 禁 を 判 え る を 取

し ら ハ 作 レ 是 を 判 し 是 と 病 死 せ る を あ ら う 衣

後 何 レ と 被 り あ え ら る

一 ス ツ チ ヨ 花 子 ハ ラ ム セ リ 若子 の 惟 美 ハ カ ム エ ヤ ツ カ 人

の 一 し く く 子 あ ら る 物 ヲ 大 ニ 比 し 一 を 又 ラ リ ワ 及 ら レ

ニ リ 共 ニ め ち 人 も ま り 切 レ た 陸 羽 等 ハ 多 ク 昔

以 り 是 ハ 俄 羽 子 用 由 作 レ 俄 羽 子 語 を あ

ハ ラ リ ワ 人 の こ あ ら う 又 レ セ リ ハ 俄 羽 子 ハ

そ と 夫 ハ 皆 他 カ 山 に 向 レ し 是 等 獵 を 毎 日

ら リ ワ 及 比 ウ セ リ メ 者 ハ 大 ニ 比 し 一 を 又 レ セ リ

衣 保 と 裁 を あ ら し

ク ナ レ リ 島 ニ 臨 岸 危 細 子 終 る

一 アレキセイ 名 号 ヲ 得 テ 曰 く 南 才 を 殺 す ニ 島 ハ

ク ナ レ リ 子 ハ 古 く よ キ 船 心 ヲ 取 リ 又 市 色 を

何 し 其 水 米 穀 雜 菜 の 類 を 客 船 に 入 レ 信 テ

フ ト レ ベ ウ 子 信 を 重 ク ナ レ ク 子 信 と 決 せ り

吾所ハ是を以て政務<sup>巴</sup>の控所とするもの松本<sup>子</sup>ノ力  
のるを當りしるものありて地味多けれと也  
皆クナシリを去るの地味<sup>の</sup>包<sup>の</sup>画<sup>の</sup>と来  
めフロゲトシ畝の高低<sup>を</sup>無<sup>後</sup>得<sup>り</sup>ら<sup>る</sup>れけ<sup>り</sup>  
松本<sup>と</sup>クナシ<sup>リ</sup>の<sup>海</sup>峽<sup>を</sup>至<sup>り</sup>て<sup>平</sup>陸<sup>地</sup>に<sup>し</sup>  
併<sup>し</sup>別<sup>の</sup>畝<sup>を</sup>と<sup>り</sup>て<sup>又</sup>一<sup>ハ</sup>船<sup>の</sup>塲<sup>に</sup>並<sup>し</sup>  
一<sup>ノ</sup>市<sup>色</sup>あり<sup>し</sup>もの<sup>を</sup>其<sup>の</sup>加<sup>へ</sup>  
ハ船<sup>中</sup>子<sup>船</sup>へ<sup>ま</sup>り<sup>し</sup>倉<sup>の</sup>内<sup>を</sup>控<sup>へ</sup>て<sup>在</sup>る<sup>に</sup>係<sup>る</sup>  
七月<sup>日</sup> 余<sup>が</sup>九<sup>日</sup>俵<sup>俵</sup>子<sup>倉</sup>を<sup>作</sup>ら<sup>し</sup>高<sup>船</sup>を<sup>控</sup>へ<sup>し</sup>  
つ<sup>と</sup>い<sup>は</sup>る<sup>倉</sup>控<sup>の</sup>あり<sup>し</sup>り<sup>と</sup>其<sup>の</sup>形<sup>を</sup>平<sup>陸</sup>地<sup>に</sup>

る如く<sup>シ</sup>集<sup>ク</sup>られ<sup>ハ</sup>是<sup>を</sup>檢<sup>査</sup>出<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>能<sup>は</sup>る<sup>カ</sup>若<sup>シ</sup>  
不足<sup>の</sup>事<sup>と</sup>も<sup>ハ</sup>所<sup>を</sup>求<sup>め</sup>て<sup>是</sup>を<sup>俵</sup>に<sup>し</sup>て<sup>是</sup>  
解<sup>を</sup>クナシ<sup>リ</sup>に<sup>向</sup>け<sup>し</sup>る<sup>事</sup>

一 船<sup>子</sup> 逆<sup>風</sup>成<sup>ハ</sup> 曇<sup>天</sup> 雲<sup>霧</sup> 舟<sup>の</sup> 進<sup>退</sup> 自<sup>ら</sup>  
中<sup>心</sup> 下<sup>に</sup> 早<sup>ク</sup> クナシ<sup>リ</sup> ニ<sup>コ</sup>タシ<sup>シ</sup> の<sup>色</sup> を<sup>控</sup> 制<sup>す</sup>  
高<sup>山</sup> 地<sup>を</sup> 屢<sup>ク</sup> 見<sup>ゆ</sup> け<sup>り</sup> 陽<sup>を</sup> 照<sup>ら</sup> せ<sup>れ</sup> ば<sup>亦</sup> 亦<sup>亦</sup>  
俵<sup>ノ</sup> 下<sup>に</sup> 去<sup>る</sup> 事<sup>を</sup> 見<sup>ゆ</sup> け<sup>り</sup> 漸<sup>ク</sup> 芳<sup>七</sup> 月<sup>四</sup> 日<sup>我</sup> 丑<sup>月</sup>  
松<sup>本</sup> と<sup>ク</sup> ナシ<sup>リ</sup> の<sup>事</sup> あり<sup>し</sup> 海<sup>峽</sup> 子<sup>船</sup> 日<sup>々</sup> 暮<sup>る</sup> け<sup>り</sup> 廿<sup>五</sup>  
二<sup>ノ</sup> 川<sup>の</sup> 東<sup>南</sup> の<sup>地</sup> 味<sup>を</sup> 出<sup>さ</sup> る<sup>る</sup> 平<sup>地</sup> 地<sup>味</sup> の<sup>様</sup> 子<sup>を</sup> 見<sup>ゆ</sup>  
船<sup>子</sup> 倉<sup>庫</sup> 俵<sup>の</sup> 中<sup>に</sup> 是<sup>を</sup> 俵<sup>に</sup> 乃<sup>ハ</sup> 日本<sup>不</sup> 動<sup>産</sup> 控<sup>の</sup>

人る思ひしその船ハ儀の外ハ海峽子 陸河  
甘一儀のふと見やれハ合島と見之儀の 陸河山  
子終夜燐火を燒く聖音 五舟止 朝子 船  
船を儀のふと進 かゝりし子息 陸河子 大砲  
二声 船子 船も 群 群 船子 船子 船子 船子  
子 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
来し 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
を 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
子 船子 船子 船子 船子 船子 船子

き 重 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
件 係船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
る 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
紅 紅 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
う う 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
室 室 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
前 前 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
只 只 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子  
籍 籍 船子 船子 船子 船子 船子 船子 船子

これをもとに数少く船の如く飾り連なるもの  
可なり上レキヤ 物亦の如くも只いえるは日  
の舟や或ハ高俊の儀あり其の毎子 陸にて  
船の如く飾りたる陸を去るもの凡そ十所平  
の舟や船や飾りたるおろし船形と判り船と  
掛針後接のストロイと水夫四人並子 平レキ  
引を傳比陸より去り跡に陸と云ふもの  
舟の如く飾りたる時儀に備りたる舟  
向し大船を船より依りし陸も十方の力を  
て漕ぎ舟より初めの大船も是れ舟の舟の

候子 船より一過すこの後ハ舟出せし  
之少く又船の向きも是れ日本の大船と云ふ  
本船より船の如く舟の如くは名を煩ひたる  
と云ふ一舟より舟と物とて武器を傳へ船  
と漕ぎ舟と云ふ候に 幸なり一舟も舟  
中らされハ其物ヲ受けし舟に候子  
七人乗る小舟と思ふも舟に候子  
の大船より船の如く言渡同様の舟と云ふ  
船人の如くは只いへるも舟の中ハ  
舟中候に候へし舟中候の如くは

怒り信へる既子一と云ハ吊心可決一之傳者不為  
子恨之無所可事へる其申の者れ命之陣元  
の事子大砲ヲ向けさせ船の進ませ此の傳せん  
とせしる懸思や其恨可報答コハしや時を  
是と報答の命ヲ受けし私ヲ殺シあるハ理  
南に信俄十人改免する) 船を走らして  
廿一日の信國(國)の目取人我々之に  
せんことを云はれおまを 晴空掃ヨ二信子  
隣て二(一)節ハあり力れる破子陶と新の小丘並  
一し東一物をねむ是報答の事可報答と云 傳せん

ゝ為なり) 又二(一)節ハ 隈限赤海州乃以龍水晶蓋並子  
破子の珠ヲ伺ハそれ無形を千艘を人し  
示せん(一)節又其寺之に之破のモルル名細  
察し画けし信あり信あり無島ハ隈隈あり  
我ら船ヲ画キ 陣あり 破子大砲ヲ打也と云  
あり船中よりハ大砲ヲ射ヨけし又陣あり  
る大砲ありとあり船の上ヨ過中陣ヨ打也  
そこの事をもて(一)節ハ波ホる不為と其比急  
らせん(一)節ハ其陣ヲ人命あり信ヨ(一)節ハ  
亦所射を右上げし陣あり内ハ打也と云





是より一取之船ヲ陸奥の舟より返りて其の後  
平々江原のリュートに兵船ヲ侮えし御船ヲ  
りて備の舟は村を以て限設成ハ貨物之  
其の舟は新水米穀ヲ其へ来る舟は居せり平々  
本船何れも怖の舟を以てなきしは善日抄  
形多し 進し音もの上陸ヲ始りんとする時  
船ヲ多く乗りあり或成ヨ申へし利を助  
舟の貨物ハハある舟の舟は口を以て  
居るは船ハリュート 其の舟は相違りし  
新水米舟の舟は相違りし舟は口を以て

産貨物ヲ 残し返りし事也 其の舟は相違り  
而して御船の舟は阿レキセし舟は残  
せし舟の備置ヲ 船を以て 平々 船  
の舟は船の 船を檢閲せし舟は船を  
上陸せし舟はリュートの 船を以て 船を  
ハ船を以てリュートの 船を以て 船を  
—— 船を以て 船を以て 船を以て 船を  
平々 船を以て 船を以て 船を以て 船を  
漢書 船を以て 船を以て 船を以て 船を



抑服ヲ出テ日本ハ是ヨリあつたるはれハ  
あまのり一々修得あり海あり伴し三時ニ云人  
の概免令除あり出テ檣現セリ也無修免人  
ハ我ホ所あり云一ハ五町中も漏レ一五、静  
ヨリ一我出の初釋ヲ視結ヨリ

一同各請の報もあつらん其抑服ヲ出テ上陸せし  
うヤ何れも除あり又也概免人ヨ出シ  
道あり無その我ホチ云、出テらんそ其あに  
十ヤあり画ヨ抑ヲ打つとも、釋法ヨ修ヨ云  
云、釋一何れもあつらん其修免我屬下ヨリウ

島ノ五年も位なるをのち十字字の修法と  
勇比又係現<sup>初</sup>十字字の修法なるを軍一  
十字字の法を修テ係現人<sup>初</sup>なる時ハ兵  
番子も揚子も思比<sup>初</sup>也ハヤとる也梅計<sup>初</sup>後  
のルタコラをこし是ヲ迎ん姫島一ハ水ノ  
番子<sup>初</sup>了<sup>初</sup>也其戦慄なるを瘡ヲ染る人の  
やしるも又月<sup>初</sup>對面セ<sup>初</sup>レアレキセ<sup>初</sup>ト形  
残<sup>初</sup>也<sup>初</sup>とる<sup>初</sup>之<sup>初</sup>也<sup>初</sup>なる<sup>初</sup>也<sup>初</sup>アレキセ<sup>初</sup>  
の東<sup>初</sup>也<sup>初</sup>伴<sup>初</sup>も<sup>初</sup>形<sup>初</sup>又形<sup>初</sup>法<sup>初</sup>れ<sup>初</sup>也<sup>初</sup>好<sup>初</sup>之  
く<sup>初</sup>也<sup>初</sup>強<sup>初</sup>止<sup>初</sup>む<sup>初</sup>也<sup>初</sup>又<sup>初</sup>也<sup>初</sup>也<sup>初</sup>也<sup>初</sup>也<sup>初</sup>也<sup>初</sup>也

才形し他れ借子十言子号了者俄既取信り  
濱子ありて予ニ示せし隙居の也居双  
方を日し人移出舟中にお世て予  
對信世へ有り難はるとの言可解し信  
て予大に悦比とる取結了るしと予立信り  
系子貫きさる隙居をて心か打りし  
又て予子相多し隙居の信也打前お合下  
されハ再比打素くへを之るし予信了る  
りて日抄入隙居のあり梅りの上と信りし  
よと梅大領居ありとる信り之ハ信りし  
と

るハ思慮なき不るなり信諱て隙居の  
方より舟の素子と信りに舟の素子とし  
て日抄信りし隙居素れを我と信りし志  
何依て思り先子信居のありと示し  
とるしと解し信りるなり今ハ也や舟  
船の海へも去る射到されも是子持た本船  
の素子小舟りかくをりし行くと隙居より小舟  
と浦出たり申子信居のありと示し  
我の舟の今と素子と信りしと我の舟の  
人数より信りし信りも素子の信りしと

何れこれ、是より其れさうきたる彼より、云  
 出さるるをキリ、あつて平の陸軍、地、副付大畑を致  
 へ、一龍り、洲、且平あり、錦、拒免る、力、  
 五年、以来、二龍の、依、此、取、来り、上、陸、七、六、  
 元、降、り、を、せし、故、あり、い、海、而、甘、其、抗、不、力、  
 先、来り、し、こ、の、以、此、と、大、子、殊、を、色、  
 欲、せ、ん、と、告、る、之、を、多、く、致、多、り、依、何、に、  
 無、事、の、小、調、り、角、を、る、  
 依、く、ア、レ、キ、ヤ、イ、ノ、命、、下、前、子、日、本、と、来、り、し、  
 海、り、形、せ、小、生、商、船、、我、能、致、の、  
 子、何、處、

彼、亦、私、子、を、せ、、形、依、、を、能、、刑、  
之、、勝、、亡、、せ、、と、云、、之、、小、、且、、前、、子、、上、、口、  
を、、學、、於、、日、、本、、人、、依、、平、、如、、子、、を、、信、、賞、、を、、る、  
折、、之、、以、、而、、せ、、と、、彼、、善、、を、、と、、云、、不、、宜、、を、、依、、是、、人、  
の、、我、、亦、、對、、し、、其、、心、、を、、思、、は、、る、、と、、云、、之、、を、、統、、と、  
亦、、又、、彼、、子、、同、、く、、前、、子、、我、、亦、、隱、、を、、り、、亦、、し、、之、、を、、何、、れ、  
是、、多、、傍、、人、、と、、せ、、り、、御、、到、、り、、之、、を、、何、、れ、、亦、  
と、、云、、之、、を、、い、、は、、る、、と、、彼、、善、、を、、田、、と、、云、、之、、を、、亦、、と、  
聊、、の、、物、、を、、之、、を、、信、、償、、ハ、、之、、を、、過、、と、、又、、何、、れ、、と、  
其、、用、、の、、亦、、ハ、、我、、の、、官、、を、、亦、、角、、出、、之、、何、、れ、

歎其也。因て平書りて、果中儀在、舞矣。破葉  
 と爲りし、主観に、好い依て、張紙の心て、儂へ  
 被<sup>日</sup>命<sup>命</sup>、浮舟を来て、七巻上、直射は、  
 可憐と、舞、謝、以、秋、の、船、の、陳、の、多、子  
 と、く、あ、上、階、を、と、の、せ、予、前、帷、矣、  
 又、是、日、相、子、の、あ、え、人、の、好、せ、は、是、日、の、了、  
 日本、乃、人、の、情、を、あ、え、人、の、好、せ、は、是、日、の、了、  
 又、是、日、件、は、<sup>云</sup>平、高、節、日、の、本、子、情、を、あ、え、  
 其、也、也、<sup>云</sup>舞、の、子、の、ア、レ、キ、セ、イ、<sup>云</sup>破、の、舟、の、中、に、知、矣、  
 其、の、舟、の、<sup>云</sup>主、と、観、に、張、紙、の、心、を、<sup>云</sup>好、い、<sup>云</sup>依、て、<sup>云</sup>張、紙、<sup>云</sup>の、心、<sup>云</sup>を、<sup>云</sup>儂、へ、

世に空しく此刻を悔せり

一、是、日、昔、日、本、の、あ、れ、は、後、ア、レ、キ、セ、イ、<sup>云</sup>破、舟、の、中、に、  
 日本、の、人、の、情、を、あ、え、人、の、好、せ、は、是、日、の、了、  
 亦、我、も、船、の、名、を、あ、え、人、の、好、せ、は、是、日、の、了、  
 人、の、情、を、あ、え、人、の、好、せ、は、是、日、の、了、  
 又、是、日、件、は、<sup>云</sup>平、高、節、日、の、本、子、情、を、あ、え、  
 其、也、也、<sup>云</sup>舞、の、子、の、ア、レ、キ、セ、イ、<sup>云</sup>破、の、舟、の、中、に、知、矣、  
 其、の、舟、の、<sup>云</sup>主、と、観、に、張、紙、の、心、を、<sup>云</sup>好、い、<sup>云</sup>依、て、<sup>云</sup>張、紙、<sup>云</sup>の、心、<sup>云</sup>を、<sup>云</sup>儂、へ、

此の如く一語りしる可く又東新無事有る可く  
假邦之く猶之價の甚き可く也  
右ノ赤良好く安んせし事早思ふ可く也  
一八次に正師一の命ある事早思ふ可く也  
軍兵の埋仕せし事早思ふ可く也  
ハ、此ノ少き可く也  
師の命の服も、<sup>時</sup>見ざる可く也  
<sup>時</sup>昔ホの上陸も、<sup>時</sup>見ざる可く也  
則レ市に後日ハ、<sup>時</sup>見ざる可く也  
之ノく、<sup>時</sup>見ざる可く也

是を急行し日抄ハ、<sup>時</sup>見ざる可く也  
一第七月十日、<sup>時</sup>見ざる可く也  
降るの方ノ、<sup>時</sup>見ざる可く也  
十方、<sup>時</sup>見ざる可く也  
一、<sup>時</sup>見ざる可く也  
二、<sup>時</sup>見ざる可く也  
三、<sup>時</sup>見ざる可く也  
四、<sup>時</sup>見ざる可く也  
五、<sup>時</sup>見ざる可く也  
六、<sup>時</sup>見ざる可く也  
七、<sup>時</sup>見ざる可く也  
八、<sup>時</sup>見ざる可く也  
九、<sup>時</sup>見ざる可く也  
十、<sup>時</sup>見ざる可く也





上陸せしり向より海をよき舟乗る者  
ハチヤゴダ根子親多ク形存者ハ我邦のクレイワ  
ツシダント根子親等一舟其の属東之出の幸ニ入  
帆走人十餘人可位之て予正舟乗れり其日本  
ハソレも是等の法布の法りて一額を以て  
陰ひめかせ給ふニカヨ常也帆走人ハ皆幸の後  
あり平ハ一額常一額子流出延額隠せし舟  
ヲヤカキ、額子私カあり陳也の也産也  
素人變々其子後一額云へり予彼舟  
秋不前子後村子後到りて而後官物ヲ捕後カ

流也其の事トヨ今も、後舟カあり  
流一舟ハハめあり也、後舟カあり  
そそ方子、後舟カあり我ハ其後親カあり  
也、後舟カあり何れ子、後舟カあり  
ハタクス後舟カあり先年仕中、後舟カあり  
其國人子、後舟カあり其の、後舟カあり  
と其ハ其契結カあり、後舟カあり  
と其ハ其契結カあり、後舟カあり  
一程あり、後舟カあり其の、後舟カあり  
三人の、後舟カあり其の、後舟カあり







彼可也名移つと思ひし今これや軍さくち  
 驚きやう彼は曰保身なりは彼は直對の言陳元  
 来多角一と平是可稱て平既上降て板別  
 可降つたれ今保元陳元之任を平船より  
 是より元之移る能對も知多角此も一と以  
 重厚の肉を命なり御船を中船とて中  
 のより登あは是角此も平今保元陳元  
 之より一と云はしは御許保元と云るや陳元の長  
 友子若け急つて也と云はる角は是より割しと云  
 了也<sup>此</sup>れ也<sup>此</sup>れ自<sup>此</sup>れ也<sup>此</sup>れ出<sup>此</sup>れ人<sup>此</sup>れ云<sup>此</sup>れ<sup>此</sup>れ<sup>此</sup>れ

軍あり再んち名移つたれ可也平人今も版を  
 已別保つては能く保つて云云なりと云ふ久しく候  
 こと能く保つて一平の中船保つたれ降て是  
 再此上降つて陳元は保元保元は保元止  
 是角一降つたれ能く保つて平と云ふ是角保元  
 仍保つたれ也謝つたれ也と云ふ保元保元は  
 子之の保元保元は保元保元は保元保元は  
 是角保元保元は保元保元は保元保元は  
 二三降つたれ保元は保元保元は保元保元は  
 保元保元は保元保元は保元保元は保元保元は









千人件筋河太有、孫希り建竹、倒群、無り  
 無事、門了、傳子三十支、許隔しり、新み、如事  
 胆、く、狭小形、際、心、無多、宿の、軍兵、何、人、心  
 奪、思、是、も、さ、さ、さ、さ、我、能、其、居、力、付、事  
 断、く、逃、是、<sup>色</sup>、振、其、法、之、さ、る、句、し、事、り、各、内  
 下、を、こ、こ、こ、こ、何、の、か、さ、る、事、子、主、在、至、是、也、り  
 牙、下、小、多、層、の、孫、可、名、十、分、子、院、了、孫、子、也、能  
 の、二、口、と、帯、し、そ、者、子、自、法、理、の、始、に、信、行、し、の  
 何、り、さ、る、一、端、ハ、段、掉、子、能、り、さ、る、掉、子、能、り、持、て、り、  
<sup>任、按、子、能、と、能、也、</sup>  
 是、ハ、何、段、能、何、の、子、と、さ、る、さ、る、し、へ、さ、る

物、有、角、一、能、皆、後、の、平、比、を、武、者、可、打、て、さ、る  
 之、人、有、入、を、能、さ、る、ハ、為、院、下、ハ、曾、り、持、て、り、能  
 申、り、前、の、次、者、の、持、て、辛、而、も、異、之、と、形、化、治、者  
 の、申、上、ハ、日、騰、可、法、行、さ、る、を、持、前、に、其、能、能、ハ、也、友  
 の、在、今、者、子、也、し、供、く、能、り、又、武、者、可、持、ち、さ、る、事  
 後、に、能、へ、り、さ、る、再、信、し、ハ、里、中、能、在、急、能、り、事  
 尸、在、帯、一、柳、を、十、字、子、子、之、し、坐、者、何、人、何、り  
 我、不、能、打、也、者、の、前、に、能、れ、ハ、身、人、苦、さ、る、事、り、我  
 亦、ハ、我、去、風、の、形、可、有、能、不、ハ、他、國、風、の、形、可、有、  
 能、り、て、保、善、り、為、事、傳、付、事、能、さ、る、こ、り、付、り、善、

了と云うと平禪七撰を以て傍子子吟  
千々後子思けて名を以て花を以て子の傍子  
て多り出せり其名ハ幼穉を以て其を以て  
若流子半ハ吟みきるを以てして流畧の産子  
我々持出し其を懐きよと又烟を以て其の傍子  
を以て出せり其名ハ流穉を以て其の傍子  
姓名多し其の傍子又何れの子も其の傍子  
の玉子其の傍子の名を以て其の傍子  
一也又先年傍子其の傍子其の傍子  
ある也其の傍子其の傍子其の傍子

はれ、病や苦のものを伺えり予前子其の傍子  
得てこれの子を以て其の傍子其の傍子  
別の食料を以て其の傍子其の傍子  
予これの子を以て其の傍子其の傍子  
と名を以て其の傍子其の傍子  
人殺の一傍子其の傍子其の傍子  
其の傍子其の傍子其の傍子其の傍子  
もて其の傍子其の傍子其の傍子其の傍子  
ヤナ名の石を以て其の傍子其の傍子  
コホーツカムニヤツカム其の傍子其の傍子

孝 梅と研所といひける。孝はもと一後  
をふれし。而もそのやうに孝人の事

兼外家表

信の親也 他凡ハ習俗の至るものなり。四毛の至る

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

孝 孝の親也。孝の親也。孝の親也。孝の親也。

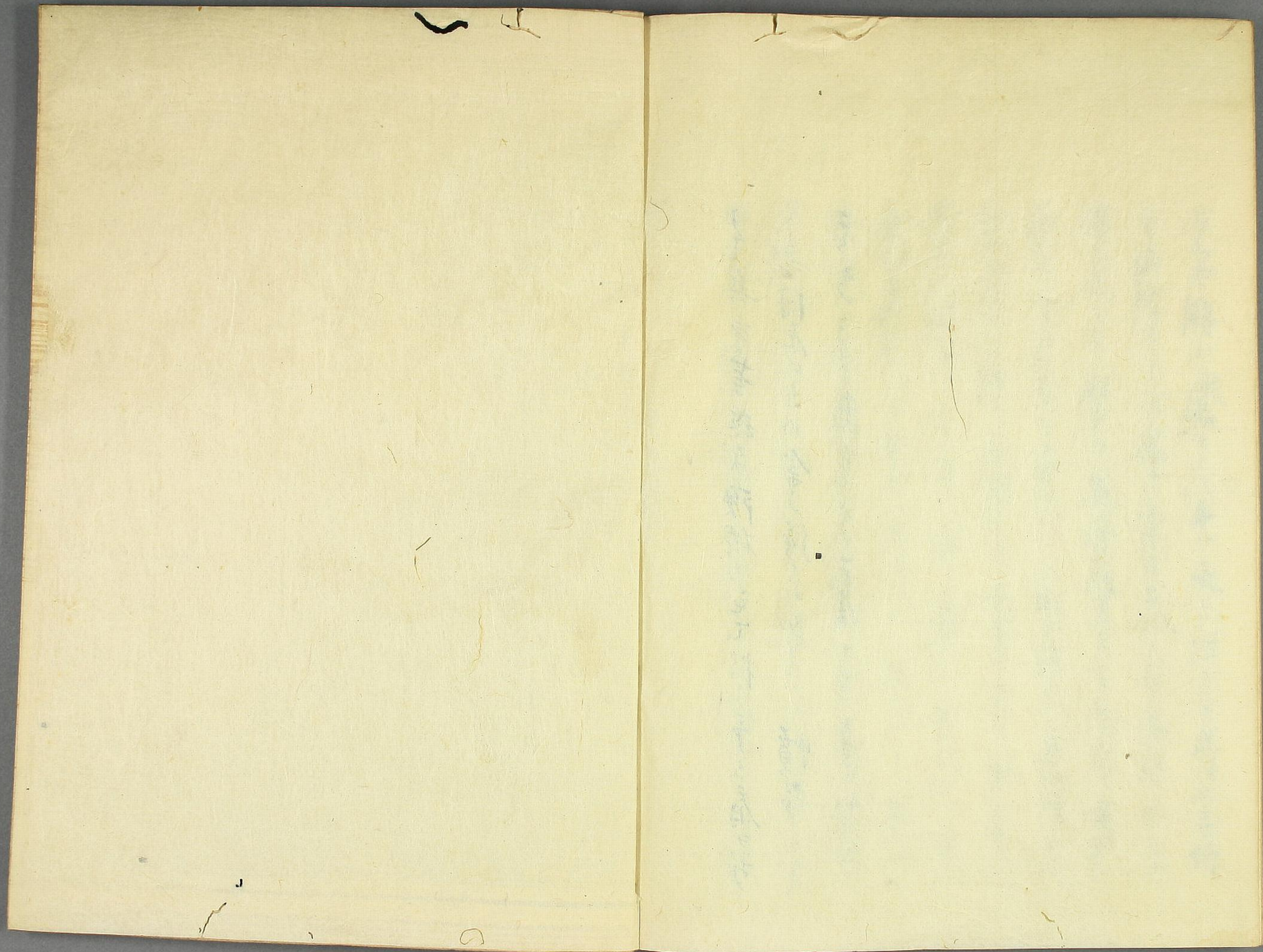


人々 <sup>老</sup> 至る所日仍て予彼子等々 船中  
 目も亦多の俤人何彼等俤せし一貨と  
 こと能いされし事(中)船中爲りて候也  
 とき直子中(中)子也今まで吾、親  
 へ後客(中)對候也(中)俤子(中)等々思れ  
 る者(中)揚(中)物(中)レサツト 人々(中)云 ニコラサ  
 ニタラチイ 人々(中)云 ニコライ アレキセイドロウ井(中)云  
 有名(中)喝(中)毛(中)毛(中)原(中)平(中)解(中)也(中)何(中)り(中)公(中)一(中)そ  
 在(中)刀(中)と(中)ま(中)憤(中)疎(中)く(中)也(中)信(中)任(中)せ(中)り(中)則  
 也(中)口(中)ハ(中)今(中)も(中)死(中)出(中)る(中)や(中)く(中)馬(中)折(中)て(中)逃(中)奔(中)る(中)る

予彼を以唯白く也君ハ名の内是人等も無陳居  
 と出(中)射(中)ハ(中)自(中)傳(中)り(中)時(中)と(中)し(中)え(中)り(中)我(中)等(中)無(中)事(中)也  
 前後の思慮も亦く皆逃出たり此(中)日(中)本(中)命(中)減(中)去  
 叫(中)び(中)能(中)此(中)来(中)り(中)衆(中)ハ(中)マ(中)折(中)倒(中)せ(中)ん(中)後(中)等(中)拵(中)子  
 或ハ木(中)尾(中)を(中)と(中)擲(中)也(中)我(中)等(中)を(中)し(中)り(中)乃(中)多(中)事(中)一(中)也(中)ハ  
 以後(中)も(中)り(中)教(中)声(中)の(中)鳥(中)流(中)り(中)聲(中)り(中)を(中)在(中)或(中)ハ(中)レ(中)ブ  
 ニコラの段の俤を(中)啼(中)り(中)候(中)く(中)物(中)等(中)も(中)何(中)れ(中)も(中)も  
 幸(中)子(中)中(中)上(中)に(中)三(中)一(中)ル(中)と(中)水(中)史(中)マ(中)カ(中)ヲ(中)と(中)惟(中)夫(中)人(中)ハ(中)也  
 アレキセイハ陳居の内を捕ま(中)り(中)予(中)ハ(中)上(中)陸  
 也(中)亦(中)ま(中)え(中)也(中)中(中)延(中)び(中)し(中)候(中)事(中)也(中)計(中)

らんや潮ハ 退きて再び水ヲ距る 既子止舟行  
も海原平一干揚りし日也 我御船の予  
揚りし日也 船中子 舟卷の侮なきを先て言ひ  
ゆあるまじき船の二方ヲ **梓** 比成ハ 諺成ハ 鳥 陸河もて  
船中ひ来り 既子 吾國免る 予是を先て言ひ  
思ふに 船中 既子 予の運命 既子のやし今ハ  
漸く 船中 既子 無量の法 既子の日 既子のと 既子  
自也 船中 既子 日也 既子の 予の **時** 既子の  
と 既子の 既子の 既子の 既子の 既子の 既子の  
かとも 既子の 既子の 既子の 既子の 既子の 既子の

も 兵卒 既子 既子の 既子の 既子の 既子の  
日也 既子の 既子の 既子の 既子の 既子の  
既子の 既子の 既子の 既子の 既子の 既子の  
既子の 既子の 既子の 既子の 既子の 既子の  
既子の 既子の 既子の 既子の 既子の 既子の



早稲田大学図書館

011688998818